

第4章 広島みらい創生高等学校の平日登校コースでの学習について

4-1 はじめに

この章では、平日登校コース（定時制の課程）での学び方について詳しく説明をしていきます。

なお、文中に特に断りがない場合は、広島みらい創生高等学校での定時制の課程を指す場合は「平日登校コース」、一般的な高等学校における定時制の課程を指す場合は「定時制の課程」と記載しています。

4-2 定時制の課程での学習

第1章の「高等学校の3つの課程」(1-2)でも述べたように、定時制の課程は「夜間その他特別の時間又は時期において授業を行う課程」で、全日制の課程の高等学校の場合は、通常、毎日6時間程度の授業を受けて3年間で卒業する教育課程になっていますが、定時制の課程の高等学校の場合は、その多くが毎日4時間程度の授業を受けて4年間で卒業する教育課程になっています。

したがって、定時制の課程の高等学校を、全日制の高等学校と同じように3年間で卒業しようとする場合には、全日制と同じように毎日6時間程度の学習が必要になりますが、学校によっては3年間で卒業できる教育課程をとっていない学校もあるので、入学を検討する際には、事前によく調べておく必要があります。

広島県においては、定時制の課程の公立高等学校は、夜間の時間帯に4時間の授業を行う(=夜間定時制)か、昼間の時間帯に4時間の授業を行う(=昼間定時制)かのいずれかで、朝から夜まで授業を行っているのは、広島みらい創生高等学校と福山市にある芦名まなび学園高等学校の2校しかありません。

このうち、芦名まなび学園高等学校は、定時制の課程の単独校で、午前部・午後部・夜間部からなる三部制の高等学校です。広島みらい創生高等学校では、入学後に学習する時間帯を決めることができますが、芦名まなび学園高等学校については、この3部の中から自分が学習しようと思う時間帯(部)をあらかじめ決めて、出願・受検する必要があります。

このような部制をとっている定時制の課程の高等学校では、自分の在籍する部(午前、夜間など)で単位を修得していくのが基本となりますが、3年間で卒業を目指す場合には、他部の時間帯の授業を受けていく必要があります。

ちなみに、芦名まなび学園高等学校では、自分の在籍する部で1年間に19単位を修得し、3年間で卒業を目指す場合には、他部で11単位を上限として授業を選択し、学習を進めていくことができるようになっています。

定時制の課程の公立高等学校の授業の時間帯(広島県 令和6年度)

学校名	時間帯	学校名	時間帯
可部高等学校	夜間	松永高等学校	夜間
呉工業高等学校	夜間	<u>芦名まなび学園高等学校</u>	午前・午後・夜間
三原高等学校	午前・夜間	福山工業高等学校	夜間
<u>広島県尾道南高等学校</u>	夜間	三次高等学校	夜間
因島高等学校	夜間	賀茂高等学校	夜間
福山誠之館高等学校	夜間	廿日市高等学校	夜間
福山葦陽高等学校	午前	宮島工業高等学校	夜間

※学校名に下線のある2つの高等学校は、定時制の課程の単独校。それ以外は、全日制の課程と定時制の課程の併置校。(この表では、広島みらい創生高等学校は除いている)

4-3 平日登校コースの学習時間帯

それでは、広島みらい創生高等学校の平日登校コースでは、学習時間帯はどのようなになっているのでしょうか？

次の表は、広島みらい創生高等学校の平日登校コースの日課表です。広島みらい創生高等学校の平日登校コースでは、朝8時50分～夜9時10分まで11時限の授業を行っています。

生徒は、4年間での卒業を目指す場合は、基本的には、午前の学習時間帯（1時限～4時限）か夜間の学習時間帯（夜1時限～夜4時限）のいずれかの時間帯に登校し、授業を受けることになります。3年間での卒業を目指す場合には、さらに午後の5時限～7時限に配置している科目の授業を受ける必要があります。

このように3年間で卒業を目指す場合には、午前から午後にかけて、あるいは午後から夜間にかけて1日6時間程度授業を受ける必要があります。午前から午後にかけて1日6時間授業を受ける場合は午前8時50分から午後3時30分、7時間授業を受ける場合は午前8時50分から午後4時30分までとなるので、これは、全日制の課程の高等学校に通学している生徒が学校で授業を受ける時間帯とほぼ一緒です。

広島みらい創生高等学校 平日登校コースの日課表

時限	開始～終了
1時限	8:50～9:40
2時限	9:50～10:40
3時限	10:50～11:40
4時限	11:50～12:40
昼休憩	
5時限	13:40～14:30
6時限	14:40～15:30
7時限	15:40～16:30
夕休憩	
夜1時限	17:20～18:10
夜2時限	18:20～19:10
夜3時限	19:20～20:10
夜4時限	20:20～21:10

※1限目から6・7限目までの授業を受ける場合、学習時間帯は全日制の課程の高等学校とほぼ一緒になる。

ただし、全日制の課程の高等学校の場合は、月曜日から金曜日まで毎日6時間あるいは7時間の授業があり、卒業までにほぼ90単位を修得しなければならない（第1章の「高等学校の3つの課程」（1-2）を参照）のに対し、広島みらい創生高等学校の場合は74単位でよいので、次の時間割のBさんのように、選択する科目・科目数等によって、週の3日間は6時間授業、2日間は午前中だけの授業とすることもできます。

また、どうしても週のうち3日間は午前中だけで授業を終わらせたいという場合は、授業の人数に余裕があれば、午後の授業の代わりに、夜間の学習時間帯の授業に出席するという事もできます。

このように広島みらい創生高等学校の場合は、3年間で卒業を目指す場合も、全日制の課程の高等学校と違って、月曜日から金曜日まで毎日朝から夕方まで学校に拘束されるということがなく、また、部活動も毎日でないことが多いので、放課後等の空いた時間を趣味や習い事、アルバイト、受験勉強などの時間に効率よく使うことができます。

実際、将来、専門学校へ進学するための資金を貯めるためにアルバイトを頑張っている生徒や、校内の自習スペースを使って大学進学に向けて受験勉強を頑張っている生徒など、自分の夢の実現のために時間をうまく使っている生徒がたくさんいます。

広島みらい創生高等学校 平日登校コースの時間割のイメージ

Aさんの時間割

時限	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1	歴史総合	体育	歴史総合	英語コミュニケーションⅠ	現代の国語
2	歴史総合	体育	歴史総合	英語コミュニケーションⅠ	現代の国語
3	数学Ⅰ	家庭基礎	保健	家庭基礎	産業社会と人間
4	数学Ⅰ	家庭基礎	LHR	家庭基礎	産業社会と人間
5	化学基礎	美術Ⅰ	言語文化	論理・表現	英語コミュニケーションⅠ
6	化学基礎	美術Ⅰ	言語文化	論理・表現	英語コミュニケーションⅠ
7		数学Ⅰ		数学Ⅰ	

Bさんの時間割

時限	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1	科学と人間生活	体育	科学と人間生活	英語コミュニケーションⅠ	現代の国語
2	科学と人間生活	体育	科学と人間生活	英語コミュニケーションⅠ	現代の国語
3	数学Ⅰ	地理総合	保健	地理総合	産業社会と人間
4	数学Ⅰ	地理総合	LHR	地理総合	産業社会と人間
5	地学基礎			書道Ⅰ	コミュニケーション技術
6	地学基礎			書道Ⅰ	コミュニケーション技術
7					

※どちらも3年での卒業を目指している生徒の1年目の時間割。Aさんは31単位分、Bさんは25単位分の科目選択をしているため、時間割が大きく違っている。

4-4 平日登校コースで学習できる科目

次に、広島みらい創生高等学校の平日登校コースでは、どのような科目を学習することができるのでしょうか？

次の表は、広島みらい創生高等学校の平日登校コースの教育課程表の一部を示したものです。平日登校コースでは、国語や地理歴史、公民、数学、理科などの各学科に共通する教科・科目に加えて、工業、商業、福祉、芸術関係の専門教科・科目を学習することができます。

広島みらい創生高等学校 平日登校コース 令和5年度入学生の教育課程（一部抜粋）

教科	科目		
国語	◎ステップアップ国語		
	現代の国語		
	言語文化		
	論理国語① 論理国語②		
	文学国語 古典探究① 古典探究②		
◎実用国語			
地理歴史	地理総合 地理探究 歴史総合		
	日本史探究 世界史探究		
	◎日本史演習 ◎世界史演習		
	◎地理演習		
	公民		
数学	◎ステップアップ数学		
	数学Ⅰ 数学Ⅰ-α① 数学Ⅰ-β②		
	数学Ⅱ 数学Ⅲ 数学A 数学B 数学C		
	◎数学演習 ◎実用数学		
	理科	科学と人間生活 物理基礎 物理基礎演習 化学基礎 化学基礎演習 生物基礎 生物基礎演習 地理基礎 地理基礎演習	
		保健体育	体育① 体育② 体育③ 体育A 保健① 保健②
			◎生涯スポーツ

↑
◎印は学校設定科目

教科	科目		
芸術	音楽Ⅰ 音楽Ⅱ 音楽Ⅲ 美術Ⅰ 美術Ⅱ 美術Ⅲ 書道Ⅰ 書道Ⅱ 書道Ⅲ		
	◎実用音楽 ◎実用書道		
	外国語	◎ステップアップ英語 英語コミュニケーションⅠ-α① 英語コミュニケーションⅠ-α② 英語コミュニケーションⅠ-β 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 論理・表現Ⅰ 論理・表現Ⅱ 論理・表現Ⅲ	
		◎実用英語	
		家庭	家庭基礎 ◎家庭基礎演習 ◎カラーライフデザイン
			情報Ⅰ
		工業	工業技術基礎 電気実習① 電気実習② 電気製図 電気回路① 電気回路②
	電気機器 電力技術 課題研究		
	商業		ビジネス基礎 ビジネス・コミュニケーション マーケティング 商品開発と流通 簿記Ⅰ 財務会計 原価情報処理 ソフトウェア活用
			家庭
福祉			
	美術		
	ビジュアルデザイン		

（出典：広島みらい創生高等学校 学校要覧（令和5年度版）をもとに作成）

これらの教科・科目のうち、例えば、数学を見てみると、学び直しの科目である「ステップアップ数学」や必履修科目である「数学Ⅰ」に加え、「数学Ⅱ」「数学Ⅲ」なども開設しているのが分かります。「数学Ⅲ」は理系の大学に進学しようとする場合には、必須の科目ですが、県内の公立高等学校の定時制の課程で、この科目を開設しているのは、広島みらい創生高等学校以外では、芦名まなび学園高等学校ぐらいです。その他の公立高等学校の定時制の課程では、「数学Ⅲ」だけではなく「数学Ⅱ」も開設されていないところもあります。広島みらい創生高等学校の平日登校コースでは、「数学Ⅱ」「数学Ⅲ」だけではなく、より発展的な学習ができる「数学演習」などの学校独自の科目（学校設定科目）も開設しています。

また、「数学Ⅰ」をよく見ると、 α と β の2種類があることが分かります。この α と β の違いは、 α が4単位の「数学Ⅰ」を2年間に分けて（2単位×2年間）学習するのに対し、 β の方は1年間（4単位×1年間）で学習するようになっています。つまり、同じ科目でも学習進度が違うということです。

全日制の課程の高等学校の教育課程を見ると、通常、「数学Ⅰ」は1年生の時に学習し、2年生になると「数学Ⅱ」、3年生になると「数学Ⅲ」を学習するようになっています。これに対して、定時制の課程の高等学校の場合は、「数学Ⅰ」を1・2年生の2年間に分けて学習するようになっているところが多くあります。全日制の課程の高等学校の生徒で、数学が苦手な生徒は、もっとゆっくり学習したいと思ってもそれができないし、定時制の課程の高等学校の生徒で、数学が得意な生徒は、もっと早く学習したいと思っても、教育課程上それができない仕組みになっています。

その点、広島みらい創生高等学校の平日登校コースでは、早く学習を進めたい生徒は β を選択し1年間で学習を終わり、「数学Ⅱ」「数学Ⅲ」へと学習を進めていったり、ゆっくりと学習を進めたい生徒は α を選択し、2年間かけて学習したりすることができるようになっています。

特に、義務教育段階の学習内容の学び直しである「ステップアップ数学」から学習をはじめた生徒にとって、高校の学習内容である「数学Ⅰ」を1年間で学習し終わるのは少し進度が早いと感じられるかもしれません。そのような生徒が、 α を選択しゆっくり学習を進めていくことは、学習内容を確実に定着させていく上で、大変効果的です。

なお、外国語の「英語コミュニケーションⅠ」でも、「数学Ⅰ」と同様に α と β の2種類を開設しています。

専門教科・科目については、工業、商業、福祉、芸術関係の専門教科・科目を開設しています。中でも、福祉については、県内の公立高等学校では珍しい「介護職員初任者研修」の資格取得に対応した教育課程となっています。介護職員初任者研修は、介護に携わる者が、業務を遂行する上で最低限の知識・技術とそれを実践する際の考え方のプロセスを身に付け、基本的な介護業務を行うことができるようにすることを目的として行われるもので、その学習内容・カリキュラムについては、厚生労働省の指針のもと、各都道府県が実施要綱に沿って指定の養成機関を決めています。

広島みらい創生高等学校は、広島県から介護職員初任者研修課程を行う事業者としての指定を受け、130時間の研修と全課程修了後の試験に合格することで、介護職員初任者研修の資格を取得することができます。

4-5 平日登校コースでの学校生活

全日制の課程の高等学校では、毎日8時30分ごろに登校し、自分のホームルーム教室の自席につき、朝のSHR（ショートホームルーム）で担任の先生から出席確認と連絡事項を受けます。そして、1時間目から4時間目まで、自分のホームルーム教室で授業を受け、昼休憩には自分のホームルーム教室で昼食をとります。その後、5・6時間目も自分のホームルーム教室で授業を受け、終わりのSHR（ショートホームルーム）で担任の先生から出席確認と連絡事項を受け、掃除をして、部活動に参加していない場合は、16時ごろ下校するというのが通常の学校生活ではないでしょうか？

このように、全日制の課程の高等学校では、いったん登校したら、ホームルーム教室を離れるのは、体育の授業や音楽・美術といった芸術関係の授業、選択科目で教室を移動するぐらいで、ホームルーム教室での生活が学校生活の大部分を占めています。3年生にもなると、選択科目が増えるため、他教室へ移動することが多くなるかもしれませんが、選択科目がほとんどない1年生の時は、ホームルーム教室の自席で過ごす時間が圧倒的に長いといえます。

通常、高等学校においては、生徒は複数の中学校から進学してくるため、1年生の同じクラスの中で、中学校でも一緒だったという人はほとんどいないことも多くあります。そのような中で、少しずつ人間関係をつくっていき、新しい友人をつくっていくということになります。一日中、同じメンバーで、同じホームルーム教室で過ごせば、そのような人間関係は築きやすいかといえば、必ずしもそうとはいえないのが実情ではないでしょうか？

生徒によっては、そのような人間関係を築くのが苦手だという生徒もいますし、そもそも友人をつくるのではなく、一人で過ごすのが好きだという生徒もいます。

しかし、そのような生徒は、時間がたつにつれて、何となくクラスの中で浮いたような存在となって、そのことがメンタル不調につながったり、朝起きることがしんどくなったりし、気が付けば学校へ登校できなくなってしまっていたというケースも見受けられます。特に1年生の時は、このようなことが起きやすいといえます。

それでは、広島みらい創生高等学校の平日登校コースでの学校生活はどのようなのでしょうか？

広島みらい創生高等学校の平日登校コースの生徒は、自分の選択している科目の授業がある時間までに登校し、授業開始までに時間があるときには、次の時間の授業に不要なものは個人用ロッカーの中に収めたり、自習スペースで予習をしたりしながら時間を過ごしています。

そして、授業開始までに自分の選択している科目の授業が行われる教室に入って、その科目の授業を受けます。次の時間も同じように選択している科目の授業がある教室に移動し授業を受けます。たまたま前の時間の授業と次の時間の授業が同じ教室で行われる場合もありますが、授業を受けるメンバーは違っていることがほとんどです。

午前中だけで授業が終わる生徒は、4時間目が終わる12時40分で放課となるため、そのまま下校する生徒もいれば、学校で食事をとってから下校する生徒もいます。午後からの授業がある生徒も、昼休憩中は校外で食事をしたり、校内の食堂や自習スペースで食事をしたりしています。

中学校時代から仲のよい者と一緒に過ごす生徒、高等学校に入ってからできた友人

と一緒に過ごす生徒、友人と過ごすよりも一人で過ごすのが好きな生徒、いろいろな生徒が思い思いに学校生活を送っていますが、全日制の課程の高等学校と違って、一日中、同じ教室（空間）で生活することがないので、自分だけが浮いてしまっているのではないかという不安を持つことはほとんどありません。「クラス」という強いしびりがないため、対人関係で余計な負担を感じさせることがないといえます。

また、制服もなく、服装、頭髪等も自由で、年齢も様々であるため、周りと同じでないと浮いてしまうということがそもそもありません。全日制の課程の高等学校では、ともすれば、周りと違うことをして、浮いてしまうようなことでも、広島みらい創生高等学校の平日登校コースでは、同じである必要がないため、そのようなことは起こりにくいといえます。

無理をしたり、背伸びをしたりする必要が全くないため、生徒は自分らしく、本来の自分のままの姿で学校生活が送れるというのも魅力の一つです。

服装について、唯一、自由にしていないのが体操服と体育館シューズです。体育の授業では、ケガの未然防止の観点から体操服と体育館シューズについては指定としています。

余談ではありますが、広島みらい創生高等学校の体操服は機能的でちょっとカッコいい！それは、体操服で登校する生徒がいることから、間違いないと思います。（カッコ悪かったら、きっと着てこないでしょう！）

しかし、体操服には学校名だけでなく、生徒個人の名前も入っているので、校外で体操服を着ている時には、十分注意してもらいたいと思います。